

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-63341

(P2010-63341A)

(43) 公開日 平成22年3月18日(2010.3.18)

(51) Int.Cl.			F I			テーマコード (参考)
H02G	9/08	(2006.01)	H02G	9/08		5G016
H02G	9/00	(2006.01)	H02G	9/00	C	5G369
H02B	1/20	(2006.01)	H02B	1/20	L	

審査請求 有 請求項の数 3 書面 (全 5 頁)

(21) 出願番号	特願2008-259047 (P2008-259047)	(71) 出願人	000148276
(22) 出願日	平成20年9月5日 (2008.9.5)		株式会社浅羽製作所
			東京都港区浜松町1丁目2番6号
		(74) 代理人	100068777
			弁理士 菊川 貞夫
		(72) 発明者	横堀 茂幸
			東京都港区浜松町一丁目2番6号 株式
			会社浅羽製作所内
		(72) 発明者	中野 守男
			東京都港区浜松町一丁目2番6号 株式
			会社浅羽製作所内
		Fターム(参考)	5G016 DA10
			5G369 AA12 BA05 CB01

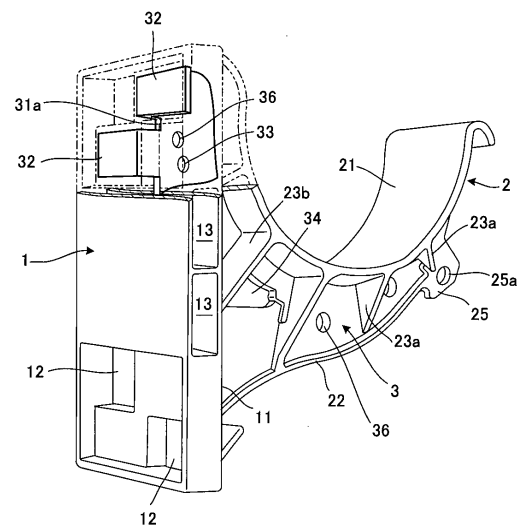
(54) 【発明の名称】 ケーブル受け具

(57) 【要約】

【課題】 軽量化を図ると同時にケーブルを傷つけずに受け止めることができ、かつ、樹脂部分が火災で熔融劣化して破壊しても、ケーブルの受け止め機能は十分に維持できるようにする。

【解決手段】 剛性金属板3が、ケーブルの布設箇所に固定した支持金具への支承部である背板部1と、背盤部1の前面より突出してケーブルの受け部になる上向き円弧面状の受け面21を備えて受け面21の下側が額縁状に形成されている肩部2とにわたって、インサートされている合成樹脂製の型物成形品であって、剛性金属板3の背板部1に埋め込まれている後側周縁部3aには左右方向へ折り曲がった状態で袖板32が設けられている構成である。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

剛性金属板が、ケーブルの布設箇所に固定した支持金具への支承部である背板部と、その背盤部の前面より突出してケーブルの受け部になる上向き円弧面状の受け面を備えて該受け面の下側が額縁状に形成されている肩部とにわたって、インサートされている合成樹脂製の型物成形品であって、その剛性金属板の上記背板部に埋め込まれている背側周縁部には左右方向へ折り曲がった状態で袖板が設けられていることを特徴とするケーブル受け具。

【請求項 2】

左右一対の袖板は段違い状にして、その各一対が剛性金属板の上下両端寄りにそれぞれ設けられていることを特徴とする請求項 1 記載のケーブル受け具。

10

【請求項 3】

受け面の下面とその下側周縁との間には、剛性金属板を挟着する状態で、合成樹脂層による補強リブが間隔を置いて設けられていることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載のケーブル受け具。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、通信ケーブル等をトンネルの壁面部に沿って布設するときに用いる、ケーブル受け具に関する。

20

【背景技術】**【0002】**

ケーブルを布設するときに用いる従来のケーブル受け具は、一般的にはケーブルの布設箇所に固定した支持金具への支承部である背盤部と、該背盤部の前面より突出してケーブルの受け部になる上向き円弧面状の受け面を備えた肩部が一体的に構成されている、合成樹脂製の型物成形品（例えば、特許文献 1 参照）である。なお、上記支持金具は、アンカーボルト等を用いて壁面部への固定部となる上下両端に連設された耳部を除いて、断面形状がコの字状であって、その左右両辺は背盤部を掛け止めできるように内向きの掛止縁に形成されている。

【特許文献 1】 実開平 7 2 3 9 4 5 号公報

30

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

上記従来のケーブル受け具は、トンネル内で発生する高温火災の影響を直接受けた場合等に樹脂が溶融劣化して破壊し、支持金具への支承機能が喪失してケーブルが脱落する事故は避けられないという問題がある。かかる問題を解消するために、一枚の鉄板をプレス加工して背盤部と肩部が一体的に構成された金属板製ケーブル受け具が必要に応じて用いられて来ているが、加工及び素材の両面で上記合成樹脂製のものと比較しかなりのコスト高になるとことは避けられず、その解決策が要望されていた。

【0004】

40

本発明はこのような問題を解決したものであって、その目的は、背盤部と肩部が一体的に構成されている型物成形品を剛性金属板のインサート成形による複合構造として、ケーブルを傷つけずに受け止めできることは勿論、樹脂部分が溶融劣化して破壊しても、ケーブルの受け止め機能は剛性金属板によって十分に維持できるように改良したケーブル受け具を提供することにある。

【課題を解決するための手段】**【0005】**

上記目的を達成するために、本発明の特徴とするケーブル受け具は、剛性金属板が、ケーブルの布設箇所に固定した支持金具への支承部である背盤部と、その背盤部の前面より突出してケーブルの受け部になる上向き円弧面状の受け面を備えて該受け面の下側が額縁

50

状に形成されている肩部とにわたって、インサートされている合成樹脂製の型物成形品であって、その剛性金属板の上記背盤部に埋め込まれている背側周縁部には左右方向へ折り曲がった状態で袖板が設けられている構成である。

【0006】

本発明の上記構成において、左右一对の袖板は段違い状にして剛性金属板の背側周縁部の上下両端寄りにそれぞれ設けられていることが、前述したような災害時でも支持金具にケーブル受け具を支承させることができ、ケーブルの不当な脱落を防止する上で好ましい。また、受け面の下面とその下側周縁との間には、剛性金属板を挟着する状態で、合成樹脂層による補強リブを間隔を置いて設け、堅牢なケーブル受け具を構成できるように実施する。

10

【0007】

なお、補強リブは背盤部と肩部の下側つけ根の部分にも、剛性金属板3を挟着する状態で背盤部1の前面11と下側周縁との間に同様な目的で設けられていることが望ましい。また、前記した支持金具の前面側に形成されている掛止縁に背盤部の左右両側部分が掛け止められて支持金具への支承が果たされるように、肩部は背盤部の左右両側寄り部分にスペースを残して背盤部に突設されており、本ケーブル受け具の成形に用いられる素材は、好ましくは難燃性ナイロンと耐蝕めっき鋼板である。

【発明の効果】

【0008】

剛性金属板のインサート成形によるの複合構造の型物成形品であるから強度に優れており、軽量で取り扱い易く、素材である剛性金属板の最小限度の使用が可能でコストダウンを図ることができる。また、ケーブルに直接接触する箇所（円弧面状の受け面）は合成樹脂層であるからケーブルの損傷を防止できることは勿論、火災時でも剛性金属板の存在によりケーブル脱落防止の受け止め機能を完全に発揮できる顕著な効果を奏するものである。

20

【発明を実施するための最良の形態】

【0009】

以下に、本発明の実施形態を図面を参照して説明する。1はケーブルの布設箇所に固定した支持金具（図示せず）への支承部である背盤部、2は背盤部1の前面11より突出しケーブル（図示せず）の受け部になる上向き円弧面状の受け面21を備えて該受け面の下側が額縁状に形成されている肩部であり、この肩部2は背盤部1の左右両側寄り部分にスペースを残して突設されている。背盤部1と肩部2は剛性金属板3が一体的にインサートされている合成樹脂製の型物成形品であって、その成形に使用される素材は、好ましくは難燃性ナイロンと厚みが2.3mmの耐蝕めっき鋼板である。

30

【0010】

剛性金属板3の背盤部1に埋め込まれている背側周縁部31aには左右方向へ折り曲がった状態で一对の袖板32、32が段違い状に設けられており、図示の場合、一对の袖板32、32は背側周縁部31の上下両端側にそれぞれ設けられている。また、受け面21の下面と背盤部1の前面11及び肩部2の下側周縁22との間には、剛性金属板3を挟着する状態で、合成樹脂層による補強リブ23a、23bが間隔を置いて設けられている（図示の場合は5箇所）。

40

【0011】

補強リブ23a、23bは、樹脂と金属板との結合を強固にするため、成形時に剛性金属板3にあけられていた孔33（図4、5参照）に充填された樹脂と一体化しており、背盤部1と肩部2の下側つけ根の部分にも、剛性金属板3を挟着する状態で、背盤部1の前面11及び下側周縁22との間に同様な目的で補強リブ24が設けられている。なお、樹脂の使用量低減と樹脂成形部分の厚み（受け面21では3mm程度）均一化の目的で、背盤部1の背面部側は中央部分を除いて袖板32の存在しない部分が凹み部12に、また中央部分は両側面からの割り貫いたトンネル部13にそれぞれ形成されている。図中、34は受け面21に受け止めたケーブルを縛着するために剛性金属板3にあけた縛着用窓穴、

50

２５は縛着用窓穴３４との間に縛着用ワイヤーを掛け止めるために肩部２の下側周縁２２に突設した掛け止め部、２５ａは掛け止め部２５に穿設した掛け止め孔、３５は剛性金属板３の下側周縁部３１ｂに設けて掛け止め部２５に埋め込まれる補強用突起、３６はインサート成形時の支持ピン挿通用孔である。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 2 】

【図 1】 本発明に係るケブル受け具の実施の一形態を一部を切り欠いて背面方向から見た斜視図である。

【図 2】 図 1 に示すものの正面図である。

【図 3】 図 1 に示すものの側面図である。

【図 4】 図 3 の A - A 線断面図である。

【図 5】 図 1 に示すものにインサートされている剛性金属板を側面方向から見た斜視図である。

【符号の説明】

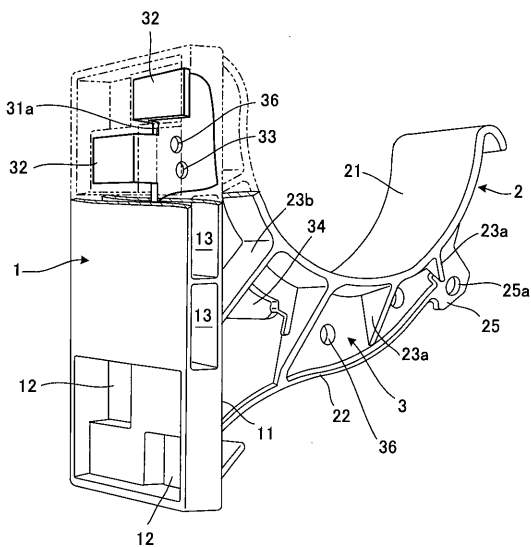
【 0 0 1 3 】

1 は背盤部
2 は肩部
3 は剛性金属板
1 1 は前面
2 1 は受け面
2 2 は下側周縁
2 3 a , 2 3 b、2 4 は補強リブ
3 1 a は背側周縁部
3 2 は袖板

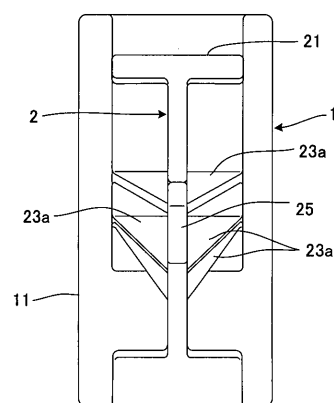
10

20

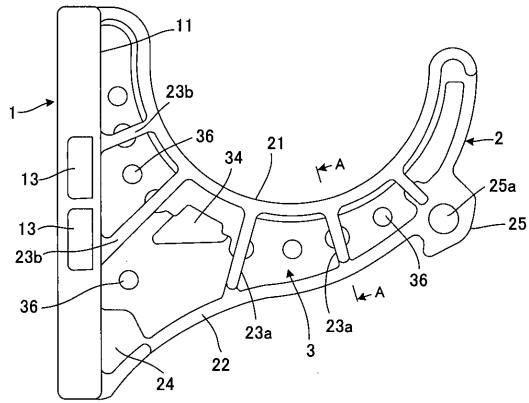
【 図 1 】



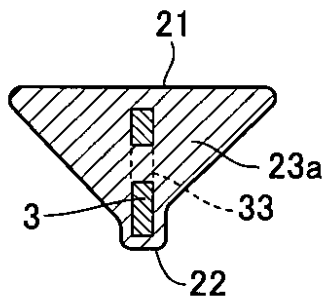
【圖 2】



【 図 3 】



【 図 4 】



【 図 5 】

